

洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2017年（平成29年度）1月～12月

（出荷単位：t・%：前年同期比）

2017年度（1—12月）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する12社の出荷実績は38,984トン・前年比で620トン増の101.6%となり3年連続の出荷増となりました。当同業会としては明るい状況ではありますが、ホームクリーニング分野は市場縮小傾向が継続しており、洗剤等の項目別出荷実績から課題も存在しております。

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③おしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む）であり、洗剤メーカーの立場から顧客概況を含めご報告致します。

（全体コメント）

当同業会の顧客をマーケットセグメントから出荷概況を1. ホームクリーニング 2. テキスタイルリネン 3. おしぼり・施設ランドリーに分類し報告致します。更に、項目別出荷概況を報告いたします。

項目 / 期・年度・前年比	2016年出荷実績(12社)						2017年出荷実績(12社)					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	85	96.6%	77	97.5%	162	97.0%	75	88.2%	64	83.1%	139	85.8%
ドライクリーニング用洗剤(フツソ系)	28	100.0%	23	100.0%	51	100.0%	26	92.9%	22	95.7%	48	94.1%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	543	95.1%	472	96.5%	1,015	95.8%	540	99.4%	459	97.2%	999	98.4%
ドライ合計	656	95.5%	572	96.8%	1,228	96.1%	641	97.7%	545	95.3%	1,186	96.6%
ランドリー用石鹼	158	85.9%	151	86.3%	309	86.1%	142	89.9%	155	102.6%	297	96.1%
ランドリー用合成洗剤(粉末)	8,859	101.4%	9,714	102.8%	18,573	102.1%	8,913	100.6%	9,738	100.2%	18,651	100.4%
ランドリー用合成洗剤(液体)	4,156	99.3%	4,878	108.6%	9,034	104.1%	4,391	105.7%	5,258	107.8%	9,649	106.8%
ランドリー用合成洗剤合計	13,015	100.7%	14,592	104.6%	27,607	102.8%	13,304	102.2%	14,996	102.8%	28,300	102.5%
ランドリー用ソフター合計	2,534	104.3%	2,914	114.1%	5,448	109.3%	2,620	103.4%	3,032	104.0%	5,652	103.7%
(うち濃縮タイプ)	414	108.4%	450	107.9%	864	108.0%	432	104.3%	451	100.2%	883	102.2%
ランドリー用粉末漂白剤	723	98.6%	775	95.0%	1,498	96.6%	681	94.2%	707	91.2%	1,388	92.7%
再販用合成洗剤合計	535	95.7%	719	91.7%	1,254	93.3%	525	98.1%	679	94.4%	1,204	96.0%
(うちコンパクト)	222	92.5%	358	96.8%	580	95.1%	214	96.4%	320	89.4%	534	92.1%
合成糊剤	492	97.2%	528	91.7%	1,020	94.2%	473	96.1%	484	91.7%	957	93.8%
年別総合計	18,113	100.5%	20,251	104.2%	38,364	102.4%	18,386	101.5%	20,598	101.7%	38,984	101.6%

*注記^①2017年出荷実績は2017年1社退会による12社の出荷実績となっております。

1. ホームクリーニング市場

ホームクリーニングは、2017年度1-12月度の総務省統計局『家計調査報告』洗濯代によると全国・（二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、6,764円と前年比454円減の93.7%となりました。

クリーニング代支出額が前年を越えたのは、1、4、5、9月の4ヶ月だけで、その他は前年割れという状況であり、当同業会の出荷減に影響を与えたと推察いたします。

項目別のドライ用洗剤合計で2017年は前年比96.6%で減少傾向に歯止めが掛かっていない状況です。一方、ランドリー用合成洗剤（粉末）の出荷増はカッターシャツ（ワイシャツ）の需要が安定的で出荷増に繋がったと推察致します。

また、繊維製品を取り巻く環境が大きく変化し、商業洗濯に係る衣類の『新しい取扱い表示記号』の制定により、消費者やアパレルメーカー等の動向によっては、ウェットクリーニング（Wマーク）とドライクリーニングの需要に影響を与える可能性があるかと推察しておりました。しかしながら、現状では需要創出に寄与しているとは言いがたく、今後もウェットクリーニング用洗剤とドライ用洗剤の出荷実態を当同業会としては、注視してまいります。

更に、当同業会の販売先であるホームクリーニングを主とする卸売業者の会社清算・廃業への傾向は継続し、当同業会のパートナー減少は深刻であると考えております。

2. テキスタイルリネンサプライ市場

－1) ホテル分野

ホテルリネン分野は、都市圏を中心とした宿泊特化型ホテルの施設数が増加傾向にあり、市場規模としては増加傾向にあると推察します。また、海外訪日来客数および国内旅行者数の増加により、都市圏から各地広がり稼働が安定的な状況でありました。

日本政府観光局（JNTO）調査報告の推定値によると2017年海外訪日来客総数は2,869万人を越え、国別では中国・韓国が700万人を越えております。この近隣国の訪日来客数の増加継続が、ホテル稼働率上昇に大きく影響を与えたと推察いたします。この訪日来客総数は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック以降も増加傾向が継続すると推定しており、ホテルリネン分野は今後も安定的であると推察しております。

－2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

①. 病院リネン関連（病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」）市場に大きく関連する病床数は、厚生労働省医療施設調査によると、2016年末総病床数は1,664.5（千）病床、病院病床数は1,561.0（千）病床でありましたが、2017年10月末では、総病床数1,655.5（千）病床、病院病床数は1,556.6（千）病床となり、総病床数は約9000床減の99.5%、病院病床数では約4400床減の99.7%と微減傾向が継続しております。この分野では、ここ数年1日単位で入院患者にレンタルする入院セットの需要が伸びている一方、病床数の減少傾向は課題であります。今後も病床数の大きな増加が期待出来ない状況で、在宅医療の流れは継続すると推察致しますが、この病院リネン分野は比較的安定に推移するものと推察しております。

尚、寝具類は医療事業機関等から衛生に対する要望が高まっており、当同業会としては、今後の対応として『洗浄剤』と『衛生関連剤』の提案・提供による課題解決が必要と考えております。

②. ダイアパーは病院リネン以上に減少し、貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しており、貸しオムツの紙オムツに対する優位性を確立していかないと、減少傾向に歯止めはかかれないと推察いたします。

－3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野で景気停滞による需要の減少傾向が継続し、リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品は他流通からの購入へ移行など、価格競争が激化し厳しい分野環境が継続していると推察致します。特に、この分野は、マット・モップの使用上の特徴から、超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更に多種多様な素材変化に対応していくことも近年重要になりつつあります。当同業会としては、リース品の耐久性も考慮した高度な洗浄技術を提供していくことで、課題解決に向けた取組を実現したいと考えます。

3. おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

①. おしぼり分野は外食産業のコスト重視の傾向が根強く、安価な紙おしぼりへの移行が進み微減傾向が継続していると推察致します。数年前から適正価格への取組も展開し、品質向上と衛生管理も充実させ、日本のおもてなし文化をいち早く訴えたリースおしぼりの良さが認識され、拡大に転じる事を期待致します。

②. 施設ランドリーは、コインランドリーがここ数年は大幅な増加傾向で、最近の特徴とし1時間程度の洗濯時間を有効に活用できるカフェ・書店等のなどとの複合施設が増加傾向で、今後も需要拡大が期待できると推察致します。一方、公衆衛生を前提とするクリーニング業法との適合性を見極める時期でもあります。また、施設管理には機械類のメンテナンスと洗剤類の適正量の使用が重要と考えております。当同業会としても期待分野であり、優良商品の提供に努め、更なる商品開発で家庭洗濯との差別性を実現したいと考えております。

テキスタイルリネン分野共通の課題は、生産量の増加による洗浄水コントロール・省エネ化、更に人手不足が深刻化しており、当同業会としても課題解決に向けた様々な商品・サービスの提供を行なって行かなければならないと考えております。

4. 2017年度総計・タイプ別出荷状況報告

－1) 全項目別総計出荷報告

－2) ドライ用洗剤

項目 / 期・年度・前年比	2016年出荷実績(12社)						2017年出荷実績(12社)					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	85	96.6%	77	97.5%	162	97.0%	75	88.2%	64	83.1%	139	85.8%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	28	100.0%	23	100.0%	51	100.0%	26	92.9%	22	95.7%	48	94.1%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	543	95.1%	472	96.5%	1,015	95.8%	540	99.4%	459	97.2%	999	98.4%
ドライ合計	656	95.5%	572	96.8%	1,228	96.1%	641	97.7%	545	95.3%	1,186	96.6%

ドライクリーニング用洗剤は前年比で42トン減の96.6%となり、上期・下期共に前年割れの出荷実績であり、長期的な縮小傾向が継続しております。

パーク系は、前年比で23トン減の85.8%、減少傾向に歯止めが掛かからず、パーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

フッソ系は、前年比で3トン減の94.1%となり、ここ数年のトレンドは横ばい傾向であり、今後の出荷状況確認が必要と考えております。

石油系は、前年比で16トン減の96.6%となり、石油系の減少傾向も今後継続すると推察しております。今後、『新しい取扱い表示記号』の施行により、洗濯方法を表示記号に応じたウエットクリーニングへ移行する動きが広がりを見せるのかを見極めていく必要があると考えております。

－3) ランドリー石鹼

項目 / 期・年度・前年比	2016年出荷実績(12社)						2017年出荷実績(12社)					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用石鹼	158	85.9%	151	86.3%	309	86.1%	142	89.9%	155	102.6%	297	96.1%

ランドリー石鹼は前年比で12トン減の96.1%となり、減少傾向が継続しております。これは、ランドリー用合成洗剤への移行が長期的に進んだ結果と推察致します。当同業会の課題として、出荷量の減少は製造コスト高になり、安定供給を果たす為には価格改定のお願いするケースもあると考えております。

－4) ランドリー用合成洗剤

項目 / 期・年度・前年比	2016年出荷実績(12社)						2017年出荷実績(12社)					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	8,859	101.4%	9,714	102.8%	18,573	102.1%	8,913	100.6%	9,738	100.2%	18,651	100.4%
ランドリー用合成洗剤(液体)	4,156	99.3%	4,878	108.6%	9,034	104.1%	4,391	105.7%	5,258	107.8%	9,649	106.8%
ランドリー用合成洗剤合計	13,015	100.7%	14,592	104.6%	27,607	102.8%	13,304	102.2%	14,996	102.8%	28,300	102.5%

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、前年比78トン増の100.4%と安定した分野であると推察致します。テキスタイルリネンサプライで、ホテルの稼働率が安定傾向であったことが、出荷量増に寄与したと推察いたします。また、病院寝具・ダスコン市場とホームクリーニング市場は微減に留まり、全体として出荷量増と推察します。

ランドリー用合成洗剤(液体)は、前年比615トン増の106.8%と安定した分野と推察致します。

液体洗剤は自動投入装置対応として期待される商品であり、粉末洗剤同様に出荷量が増加しました。液体洗剤を使用するコインランドリー施設への出荷増と、ホテル・病院寝具分野で液体洗剤類の自動投入機対応も増加要因と推察しております。今後もトータルコストメリットや生産安定化に寄与できると判断される要素が増えていくと、テキスタイルリネンサプライ市場での需要も増加するものと推察します。

ランドリー用合成洗剤は2010年からの傾向で見ましても、テキスタイルリネンサプライ市場のホテル分野が安定的に推移したことで、出荷量も安定化していると推察致します。また、ホームクリーニング市場においても、ランドリー用合成洗剤の落ち込みはドライクリーニング用洗剤程ではなく、微減に留まっているものと推察しております。更に、コインランドリーブームが継続すると今後も市場拡大すると期待しております。

－5) ランドリー用ソフトナー・漂白剤・合成糊剤

項目 / 期・年度・前年比	2016年出荷実績(12社)						2017年出荷実績(12社)					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用ソフトナー合計	2,534	104.3%	2,914	114.1%	5,448	109.3%	2,620	103.4%	3,032	104.0%	5,652	103.7%
(うち濃縮タイプ)	414	108.4%	450	107.9%	864	108.0%	432	104.3%	451	100.2%	883	102.2%
ランドリー用粉末漂白剤	723	98.6%	775	95.0%	1,498	96.6%	681	94.2%	707	91.2%	1,388	92.7%
合成糊剤	492	97.2%	528	91.7%	1,020	94.2%	473	96.1%	484	91.7%	957	93.8%

①. ランドリー用ソフトナーは前年比204トン増の103.7%と拡大傾向となりました。メインの使用分野であるテキスタイルリネンサプライ市場が堅調に推移し、更にコインランドリー市場の需要拡大が出荷量増加に繋がったと推察致します。

濃縮タイプについても安定的に推移し、前年比19トン増の102.2%と濃縮タイプの利便性は受け入れられつつあると考えており、今後も従来タイプから濃縮タイプへ移行していくものと推察いたします。

ここ数年は増加傾向で、濃縮タイプへの移行により実質的には実績以上の拡大をしているものと推定しております。

当同業会の技術革新により、濃縮タイプ柔軟剤は、繊維に『柔軟性』・『帯電防止性』付与するだけでなく、『抗菌性』、『平滑性』、『すべり性』を付与する機能剤として、今後も拡大していくものと期待しております。

②. ランドリー用粉末漂白剤は前年比 110 トン減の 92.7%となりました。近年は減少傾向が継続しており、粉末漂白剤のユーザーであるホームクリーニング市場の縮小傾向と推察しております。

③. 合成糊剤は前年比トン 63 減の 93.8%となりました。シーツやYシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。

ー 6) 再販用合成洗剤

項目 / 期・年度・前年比	2016年出荷実績(12社)						2017年出荷実績(12社)					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
再販用合成洗剤合計	535	95.7%	719	91.7%	1,254	93.3%	525	98.1%	679	94.4%	1,204	96.0%
(うちコンパクト)	222	92.5%	358	96.8%	580	95.1%	214	96.4%	320	89.4%	534	92.1%

再販用合成洗剤は、前年比 50 トン減の 96.0%となりました。長期の減少傾向に変わりはないと推察致します。1994 年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となり濃縮タイプも前年比 30 トン減の 95.1%と減少傾向が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響を受け、このトレンドは継続するものと推察します。

5. まとめ

当同業会の出荷総計では前年比 101.6%という結果でありました。ホームクリーニング分野は減少傾向でありましたが、テキスタイルリネン分野はホテルリネンが好調であったことが貢献しリネンサプライ分野での需要が大きいメインのランドリー洗剤とソフトターが出荷増となり、全体として出荷増という結果となりました。

当同業会としては、ドライクリーニング用洗剤の下落傾向は深刻に捕らえております。今後も、当同業会 12 社は洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献してまいります。

以上